

## 映画を活用した関係詞と仮定法の指導法

—効果的な文法指導を目指して—

### Teaching Relatives and Subjunctive Using Movies: Strategies Toward Effective Grammar Teaching

松浦 加寿子

中国学園大学

Kazuko MATSUURA  
*Chugoku Gakuen University*

#### Abstract

The purpose of this study was to compare grammar instruction using movies with grammar instruction utilizing only textual information for first- and third-year students at a private university, and to examine the degree of retention of grammar items by each teaching method. In this study, I focus on the relative and the subjunctive, which are generally regarded as difficult grammar items to comprehend for Japanese students studying English. The results of the survey show that students' understanding of grammar was enhanced after using this method of instruction compared to previous instruction strategies. There was no significant difference between the first-grade subjunctive (movie), relatives (text only), the third-grade subjunctive (text only), and relatives (movie) before and after instruction. However, there was a significant increase in the scores of the first-grade students when they were taught the subjunctive grammar forms using movies. This was probably due to the fact that the students voluntarily led the rules of the subjunctive. These results indicate that the use of the movies can influence the retention of grammatical items, in particular, the subjunctive grammar form.

#### 1. はじめに

平成30年に告示された高等学校学習指導要領解説の外国語科の目標には、「外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用

できる技能を身に付けるようにする。」と掲げられており、文法指導と言語活動の一体化が明記されている。すなわち、英語コミュニケーション力を向上させるためには、英語表現の正確さだけでなく、具体的な場面で適切な英語表現を使用できるようになることも重要である。また、指導の際には映画を活用することで、具体的な場面と英語表現を結びつけやすくなることから文法項目の定着に役立つと考えられる。

本研究の目的は、映画を活用した文法指導が文字情報のみの指導と比較して有効な指導法であることを示すことである。まずは、文法項目を指導する際に、映画を使用する意義を述べたうえで、映画の選定と指導文法項目、さらに効果的な文法指導を検討する。

## 2. 研究の背景

映画を授業で活用する研究は数多くみられるが、多くは角山（2008）、近藤（2015）、倉林（2017）などのようにリスニング指導の効果や、角山（2008）、近藤（2018）などに見られる動機づけに関するものである。学習教材としての映画の可能性はどのようなものだろうか。

### 2.1 授業で映画を使用する意義

Edsawa et al. (1989) は、授業で映画を使用する利点として次の 5 点を挙げている。

1. First, a film is one of the most authentic materials that teachers can provide in a classroom situation.
2. The second advantage of using films is that they motivate students to listen to the language.
3. Third, films offer visual contexts so that the students can understand by watching situations what the pronoun is indicating or what the speaker really wants to convey.
4. Fourth, films offer socio-cultural information that underlies the communication taking place, and this information is much easier to teach using a visual medium.
5. Last, another important advantage of the use of films is that they provide meaningful contexts and vocabulary with natural language spoken at natural speed.

つまり、映画は教室内でオーセンティックな英語を提供できる点やリスニングの動機づけ、音声だけでなく、映像により多くの情報を与えることができる点、非言語コミュニケーションの要素を効果的に指導できる点、ナチュラルスピードで話される意味のあるコンテキストと語彙を提供できる点を挙げ、授業で映画を使用する有用性を論じている。

また、小林（2003）は、授業で取り上げる洋画の選択基準として、1) 画像的、言語的に教育上適切なシーン、2) 盛り上がりのある面白いシーン、3) 聞き取りやすいシーン、4) 対話の多いシーン、5) 学習者が将来遭遇する可能性が高いシーン、6) 日常生活で頻度の高い語彙項目や構文が使われているシーン、7) 教えたい、あるいは、シラバス上、提示する時期として適切な言語材料が使われているシーンと述べている。

したがって、映画を使用することで、語彙や文法などが具体的にどのような言語場面で使用されるのか、場面設定が可能となり、情景を思い浮かべることで文法理解を促進し、定着する手助けになると考えられる。

## 2.2 指導文法項目の選定

神本(2006)は、大学生が難しいと感じる文法項目について調査し、20の文法項目の中で最も難しいものは関係副詞、次いで仮定法過去完了、仮定法過去が6.5位(過去分詞と同率だったため)、関係代名詞が9位と結論づけている。仮定法と関係詞は両者とも10位以内に入っていて、大学生にとって一般的に難しいと考えられていることがうかがえる。さらに、白畑(2018)は、習得が困難で明示的指導を行った方がいい文法項目として、現在完了、仮定法、to不定詞、関係代名詞節の4つを挙げている。以上のことから、今回の指導文法項目は、関係詞と仮定法を取り上げることにした。

## 2.3 映画の選定

先述した小林(2003)の映画の選択基準を踏まえて、今回の調査で扱う映画は、『ハリー・ポッターと賢者の石』(2001)を選定した。選定理由としては、世界的に大ヒットし、社会現象を巻き起こした作品であり、認知度が高く、大学生からの人気も高いことが挙げられる。また、三原(2004)は『ハリー・ポッターと賢者の石』と『ハリー・ポッターと秘密の部屋』に見られる仮定法の種類と用法を考察している。『ハリー・ポッター』シリーズはファンタジー作品であるため、仮定法を使用した台詞が多いことや、調査協力者である3年生は「英米文学概論」の授業で全編視聴していることも今回扱う理由の一つである。同様に調査協力者である1年生には指導前にあらすじを簡単に説明している。さらに、指導文法項目の関係詞に関して、映画の中で子どもが使う関係詞は、特に簡潔で分かりやすいものが多かったことも選定した理由である。

## 2.4 映画を活用した文法指導

映画を活用したリスニング指導や動機づけの研究と比較して、映画を活用した文法指導の研究は少ないが、いくつか見られる。平野(2014)は、映画の台詞を分析しながら現在完了形のコアとなる概念を学ぶことの重要性を指摘している。また、角山(2015)は、映画『レナードの朝』を取り上げ、発音や文法、定型表現など英語素材としての活用方法とともに、異文化理解の素材としての活用方法も提案している。さらに松本(2017)は、過去形が持つ距離感の概念について、映画を利用して学習者に指導することで、丁寧な意味を持つ過去形や話者の心的態度を場面から読み取る仮定法過去の文法指導の可能性を示唆している。

また、Larsen-Freeman(2003)は、文脈と文法指導が切り離された従来の文法指導では文法の運用能力は不十分と指摘していて、Larsen-Freeman(2003)と高島(2013)は言語活動を通して行うフォーカス・オン・フォームの重要性を主張している。Larsen-Freeman(2003)と高島(2013)らは、意味(Meaning)と形式(Form)と使用(Use)を強調している。筆者は使用の場面で映画が貢献できると考えた。

以上のことから、映画を活用したリスニング指導や動機づけに関する研究は多く報告がなされている一方で、映画を活用して文法項目の定着度が向上した内容の論文は、筆者が知る限り、ほとんど報告されていない。そこで、筆者は映画を活用した文法指導に着目し、効果的な文法指導を検討したい。

### 3. 研究方法

#### 3.1 研究目的

本研究の目的は、映画を活用した文法指導と文字情報のみの文法指導を比較し、各指導法による文法項目の定着度を検証することである。とりわけ、理解が難しいとされる関係詞と仮定法を取り上げることで、映画の具体的なコミュニケーション場面を通してより効果的な文法指導を提示したい。

設定したリサーチクエスチョンは、以下のとおりである。

- ・ 文脈を伴う映画を活用した文法指導の方が文字情報のみの指導より文法事項の定着度が向上する。

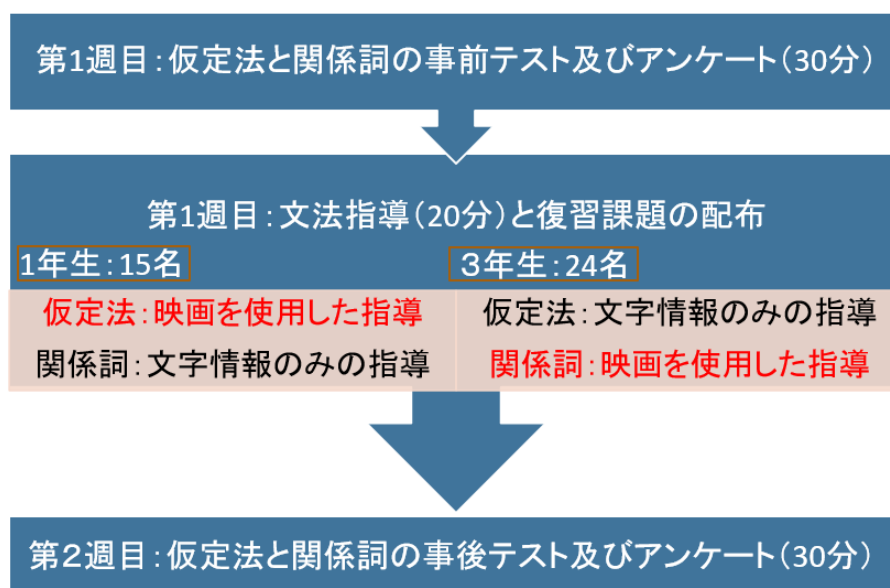
#### 3.2 調査協力者と実施時期

調査協力者は、私立大学の国際教養学部所属する「英語資格演習B」の受講者1年生15名と、「英米文学概論」の受講者3年生24名である。英語のレベルは英検3級から準1級取得者まで幅広い。実施時期は2021年1月中旬に2週にわたって行った。

#### 3.3 調査方法

調査方法は表1のとおりである。なお、本調査は対面授業下で実施している。

表1 仮定法と関係詞の指導手順



#### 3.4 事前テストと事後テスト

対象文法項目である仮定法と関係詞の整序問題を各10問、計20問を自作し、学習者に回答させた

(付録 1・2)。対象文法項目は学習者には周知していない。20 問のうち、対象文法項目以外も出題している。例えば、仮定法であれば、条件節の *if*、関係詞であれば、接続詞の *that* などである。また、復習課題は関係詞や仮定法の動詞の箇所を空欄にして、選択式にさせた。復習課題では和訳もさせて、意味と形式にも注意を払わせるようにし、翌週に提出するように指示した。

### 3.5 関係詞の指導

関係詞（関係代名詞・関係副詞）の指導に関しては、スライドを用いて以下のように行った。

①映画『ハリー・ポッターと賢者の石』で対象文法項目の場面を視聴、または文字情報のみで仮定法を説明

②文法説明：意味と形式に注意を払わせながら明示的に指導

③練習問題： 関係代名詞か関係副詞が見極める問題をペアワークで考えさせる  
魔法に関する英作文をペアワークで考えさせて発表

④フィードバック

①の対象文法項目の場面について、一部を紹介する。例えば、hogwarts魔法魔術学校のダンブルドア校長が赤ん坊である主人公のハリーをダーズリー夫妻に託す際に、マクゴナガル教授に発したセリフの中に省略されてはいるが、関係代名詞・目的格の構造が見られる。一つ目の括弧内は字幕翻訳、二つ目の括弧内はセリフの発話時間を付している。

Dumbledore: The only family he has. (ほかに親戚がないのじゃ) <00:03:07>

今回は関係代名詞が省略されているが、関係代名詞の後に出てくる動詞が先行詞の目的語になっているかどうか確認するように説明した。さらに先行詞のない関係代名詞 “*what*” の例としては、ハリーの友達であるハーマイオニーが、闇の森で悪魔の罠にはまらないように友達のロンに忠告する場面で次のセリフが見られる。

Hermione: Do what I say! (言った通りにするのよ!) <01:57:17>

関係代名詞 “*what*” は、「～すること」という意味であり、先行詞がないこと、*what* の後は主語、動詞が続くことを強調した。文字情報のみでの指導においては、映画を使用せず、文脈を伴わない例文 “*I remember when we first met.*” などの例を用いて説明した。②の関係詞の説明に際しては、スライドのアニメーション機能を用いて先行詞と関係詞節を可視化することで、先行詞を分かり易く指導するように努めた。また③の練習問題では、関係代名詞か関係副詞が見極める問題を提示し、理解の確認を行った後、仮定法の時と同様に魔法に関する英作文、例えば「ハリーが使う魔法は素晴らしい」や「魔法を使うハリーはすごい」といった映画の内容に合わせた関係詞の英作文をペアワークで考えるように指示し、発表させた後、フィードバックを行った。

### 3.6 仮定法の指導

仮定法（仮定法過去・仮定法過去完了）の指導に関しては、スライドを用いて以下のように行った。

①仮定法の内容について説明

②映画『ハリー・ポッターと賢者の石』で対象文法項目の場面を視聴、または文字情報のみで仮定法を説明

③文法説明：意味と形式に注意を払わせながら仮定法のルールに気付かせる指導

④練習問題：魔法に関する英作文をペアワークで考えさせて発表

⑤フィードバック

①の仮定法の概念については、先述した松本（2017）が重要性を指摘していたように、まずは、なぜ仮定法で過去形や過去完了形を使用するかについて説明した。つまり、過去形には主に時間的な距離、現実からの距離、心理的な距離の3つがある。過去形は距離を置くことであり、仮定法の場合は現実からの距離であることを強調した。②の対象文法項目の場面については、闇の森の番人であるハグリッドがハリーをホグワーツ魔法魔術学校に誘う時に、次のような仮定法過去のセリフが見られる。

Hagrid: I'd appreciate if you didn't tell anyone at Hogwarts about that. (魔法を使ったことは内緒にしてくれや) <00:17:58>

仮定法過去完了に関しては、ホグワーツ魔法魔術学校のクィレル教授とハリーが対決する場面で次のセリフが見られる。

Quirrell: If Snape's cloak hadn't caught fire and broken my eye contact, I would have succeeded. (スネイプのマントが燃えてつい目をそらし一殺し損ねたのだ) <02:07:59>

③に関しては、上記の例文を用いて動詞の形と意味にずれがあることに注意させながら、仮定法のルールに気付かせる発問をして、自ら仮定法のルールを導かせるように指導した。④では、映画『ハリー・ポッターと賢者の石』の内容に合わせて、「もし魔法を使えたら～するだろう」「もし子どもの頃魔法を使えていたら～していただろう」のような魔法に関する英作文を考えさせてペア同士で会話させて、フィードバックを行った。

### 3.7 質問紙調査

質問紙調査を第1週目に実施した。事前の質問紙調査の項目としては、主に文法に対する意識調査や英語学習の目的、事後の質問紙調査の項目では、指導の際の分かり易さなどについて回答を求めた。

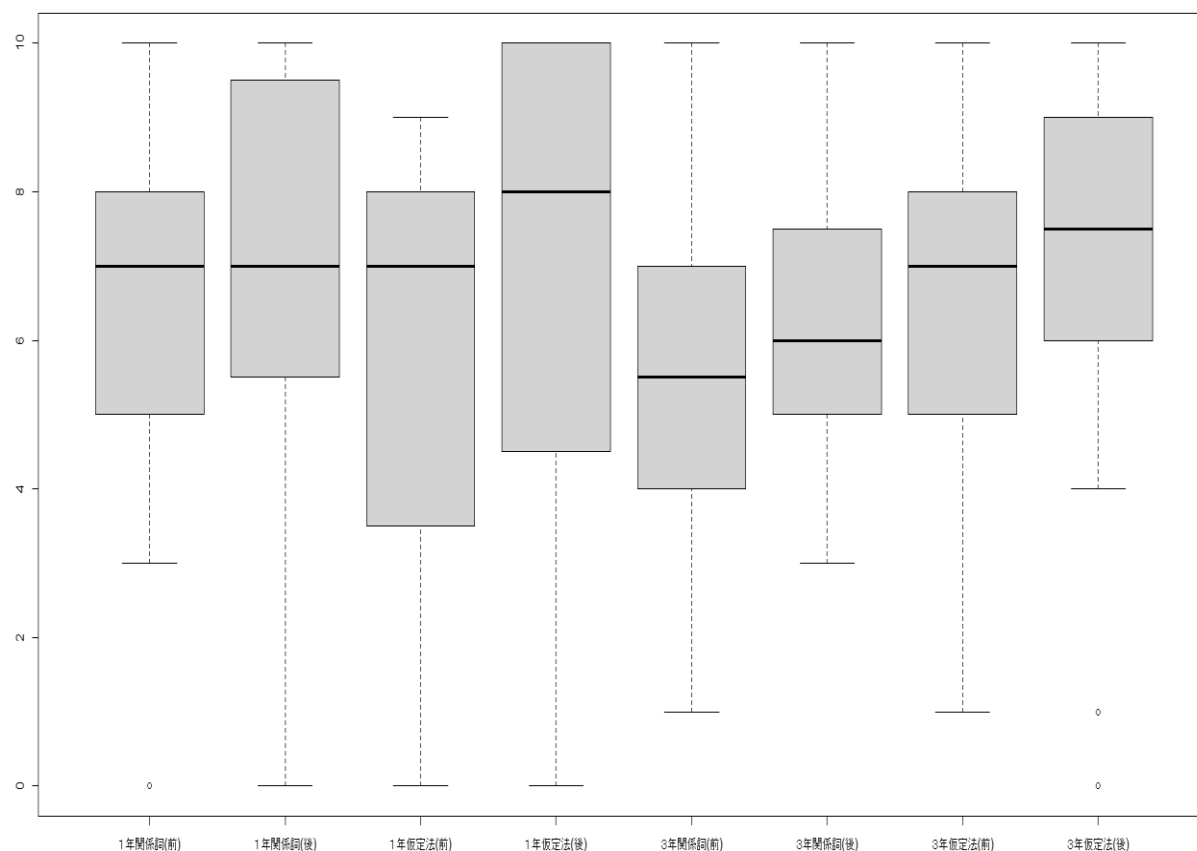
## 4. 結果と考察

### 4.1 事前・事後テストの分析結果と考察

1年生と3年生に実施した仮定法と関係詞の事前・事後テストの結果をウィルコクソンの順位和検定で検証した結果、いずれも有意差はみられなかった（1年生関係詞： $W=91.5, p=.388$ 、1年生仮定法： $W=74.5, p=.114$ 、3年生関係詞： $W=244.5, p=.370$ 、3年生仮定法： $W=240, p=.323$ ）。

次に、各文法項目における1年生と3年生の事前テストと事後テストの結果を箱ひげ図で示す（図1）。縦軸は問題数の10である。

図 1 1 年生と 3 年生における関係詞と仮定法の事前テストと事後テストの結果



左から順に 1 年生関係詞の事前テスト、事後テスト、仮定法の事前テスト、事後テスト、3 年生関係詞の事前テスト、事後テスト、仮定法の事前テスト、事後テストの得点の分布図である。1 年生、3 年生ともに各文法項目において事後テストの方が、中央値の上昇、また、箱全体が上に移動し、中央値より上に箱の長さが伸びていることから各文法項目の理解度が促進され、全体的に得点の上昇が見て取れる。

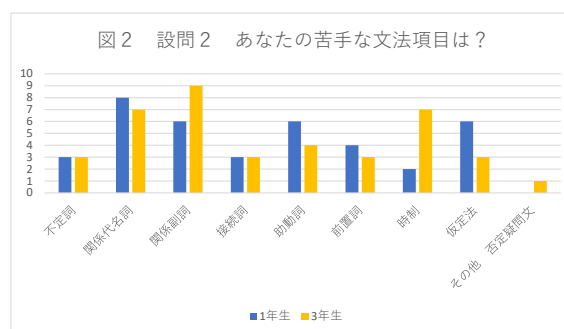
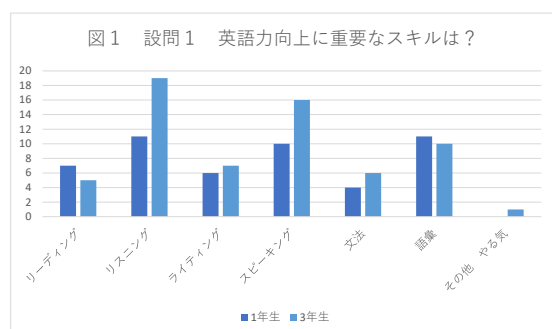
1 年生に着目すると、関係詞に関しては、中央値は変わらないものの、指導後に理解が深まったことが明らかである。特に、1 年生の仮定法に関しては、指導前には理解できなかったが、指導後に完璧もしくはほぼ完璧に理解できた学習者も多いことが顕著である。また、3 年生は、関係詞と仮定法の両方において、理解が深まり、最低値の底上げにつながっていることがわかる。3 年生の関係詞においては、事後テストの箱の長さが事前テストと比較して小さくなっていることから、中央値付近に多くのデータがあることを示している。つまり、中央値自体が上昇したことに加え、全体の 50% のデータが近い点数を取っていることがうかがえる。以上のことから、今回の調査においては、映画を用いた 1 年生の仮定法の理解度が最も進んだことが明らかであるといえる。これは、仮定法のルールを自ら導かせたことが功を奏したのではないかと考えられる。

## 4.2 質問紙調査

ここでは、指導前に実施した1年生と3年生の英語に関する事前アンケートの結果と指導に関する事後アンケートの結果を示す。有効回答数は39名である。

### 4.2.1 事前アンケートの分析結果と考察

まず、事前アンケートの設問1では、「英語力向上に重要なスキル」について複数回答可で尋ねた。図1のとおり、とりわけリスニングとスピーキングが高い項目として示されていることがわかる。1年生は「リスニング」と「語彙」が同率23%で最も多く、次いで「スピーキング」(20%)が多い結果となった。3年生についても上位3項目は同様に、「リスニング」(30%)、「スピーキング」(25%)、「語彙」(16%)と続いている。また、「やる気」と回答した学習者も1%見られた。設問2の「苦手な文法項目」に対しても複数回答可で尋ねた結果、図2で示したとおり、1年生では「関係代名詞」(21%)が最も多く、次いで「関係副詞」、「助動詞」そして「仮定法」が同率で16%であった。他方、3年生は「関係副詞」(22%)と回答した学習者が最も多く、「関係代名詞」と「時制」が同率17%であったことから、共通して「関係代名詞」と「関係副詞」に苦手意識を抱いていることがうかがえる。また、この結果は最も苦手な文法項目として関係代名詞、関係副詞、助動詞そして仮定法を挙げている神本(2006)の調査とほぼ一致している。設問3の「文法が得意か?」の設問に対しては、1年生で「そう思う」と回答した学習者は14%、3年生では17%にとどまり、約8割の学習者は文法が苦手と感じていることが明らかになった。設問4の「英語力向上のために文法は必要か?」の設問に対しては、1年生は「非常にそう思う」と「そう思う」と回答した学習者が93%、3年生は「非常にそう思う」と「そう思う」と回答した学習者が79%であり、英語習得のためには文法が必要と位置づけている学習者が多いことがわかる。最後に設問5では、「英語学習の目的」について複数回答可で尋ねた。1年生では、英語を「コミュニケーションのツール」(54%)や「将来の職業のため」(31%)と回答した学習者が大半であった。他方、3年生では「外国の方とコミュニケーションを取るため」(29%)、次いで「将来のため」(14%)、「英語が好きだから」と「仕事と旅行」が同率で11%、「異文化理解」(7%)などが主に見られ、1年生と比較してより幅広い回答が得られた。





#### 4.2.2 事後アンケートの分析結果と考察

事後アンケートでは、文法指導に関して回答を求めた。設問1の「文法指導は分かり易かったか？」に対しては、1年生は「非常にそう思う」、「そう思う」と回答した学習者が93%、3年生は92%であったことから指導のうえでは特に問題なく、肯定的に受け止められたと思われる。設問2の「映画と文字のみの指導はどちらが分かり易かったか？」に対して、1年生は「映画」と回答した学習者が73%、「文字のみ」と回答した学習者が14%、「変わらない」と回答した学習者は13%であった。「映画」と回答した理由としては、「使う場面が分かる」「楽しく勉強できる」「感情がこもっていて英単語が聞き取りやすいから」などが挙げられていた。また「変わらない」理由としては、「その人の映画の興味の度合いによるから」と回答した学習者もいた。3年生は「映画」と回答した学習者が78%、「文字のみ」と回答した学習者が18%、「変わらない」と回答した学習者は4%であった。「映画」と回答した具体的な理由としては、「実際使われているところを見たら使う場面を連想しやすかったから」、「実際に自分の目と耳で学べるから」、「文字だけでは勉強する気が落ちるけど視覚的に楽しく勉強できた」などが挙げられていた。また「変わらない」理由としては、「スムーズさを考えると」の回答があり、視聴場面の頭出しに少し手間取ったためと思われる。設問3の「ハンドアウトは理解するうえで役に立ったか？」に対しては、「非常にそう思う」と「そう思う」を含めて1年生は93%、3年生は96%と非常に高い割合でハンドアウトに満足していたことがわかる。設問4の「指導前より仮定法を理解できるようになったか？」については、1年生は「非常にそう思う」と「そう思う」と回答した学習者が93%、3年生は96%と非常に高い割合で理解が深まっており、箱ひげ図の結果と一致していることが見て取れる。また、設問4で「指導前より関係詞を理解できるようになったか？」も尋ねたところ、1年生は「非常にそう思う」と「そう思う」と回答した学習者が93%、3年生は87%であったことから、仮定法の方が理解は深まったことがアンケートからも明らかになった。最後に設問5で文法学習に関してコメントを求めたが、何もコメントは寄せられなかった。

### 5. まとめと今後の課題

本研究では、映画を活用した文法指導と文字情報のみの文法指導を比較し、各指導法による文法項目の定着度をウィルコクソンの順位と検定で検証したが、有意差は見られなかった。しかしながら、箱ひげ図からは、各学年において関係詞、仮定法の文法事項ともに理解度が向上し、全体的に得点が上昇したことが明らかである。特に、映画を用いた1年生の仮定法と3年生の関係詞では顕著にみられた。映画を活用することで文法項目の定着の向上に貢献したのかどうかはさらなる検証が必要になるだろう。1年生の仮定法に関しては自ら仮定法のルールに気づかせたことも文法項目の定着に貢献したと示唆できる。また、事後アンケートからは映画を活用することで、英語表現の使用場面を提供できる点や、動機づけに有効である点を再認識できた。今回は、言語活動に十分時間を割くことができなかつたと感じる。さらに学習者主体の言語活動に時間を割き、アウトプットさせることで文法事項の定着度も向上すると考えられる。今後もさらに効果的な文法指導を検討していきたい。

## 引用文献

- 角山照彦 (2008). 『映画を教材とした英語教育に関する研究』 岡山：ふくろう出版.
- 角山照彦 (2015). 「医療系クラスに使える映画の教材化に関する実例研究—『レナードの朝』を活用した ESP アプローチ」『映画英語教育研究』 第 20 号, 3-18.
- 神本忠光 (2006). 「高校の『ゆとり教育』で大学生の英文法力がどう変化したか—10 年前との比較—」『熊本学園大学文学 文学・言語学論集』 第 13 巻, 第 2 号, 1-29.
- 倉林直子 (2017). 「映画を利用したリスニングの授業に関する一考察」『川村学園女子大学紀要』 第 28 巻, 第 1 号, 33-46.
- 小林敏彦 (2003). 「洋画を活用した英語授業のための 10 ステップ統合モデル」『映画英語教育論』 名古屋：フォーインスクリーンプレイ事業部, 10-27.
- 近藤暁子 (2015). 「映画を使用した日本人学習者対象のリスニング指導効果」『映画英語教育研究』 第 20 号, 19-32.
- 近藤暁子 (2018). 「映画を使用した指導による日本人大学生の英語学習に関わる動機づけへの影響」『映画英語教育研究』 第 23 号, 17-30.
- 白畑知彦 (2018). 「外国語の文法学習における明示的学習・指導の役割 を考える」『静岡大学教育学部研究報告 教科教育学篇』 第 50 巻, 169-184.
- 平野順也 (2014). 「現在完了形のレトリカルな機能の考察—効果的な文法指導を求めて—」『映画英語教育研究』 第 19 号, 73-87.
- 高島英幸 (編著). (2011). 『英文法導入のための「フォーカス・オン・フォーム」アプローチ』 東京：大修館書店.
- 松本知子 (2014). 「映画を用いた英語の句動詞についての一指導法」『映画英語教育研究』 第 19 号, 121-135.
- 松本知子 (2017). 「距離感をもたらす英語表現 —効果的な文法指導法を求めて—」『長崎国際大学論叢』 第 17 巻, 63-73.
- 文部科学省 (2018). 「【外国語英語編】高等学校学習指導要領解説」  
[https://www.mext.go.jp/content/1407073\\_09\\_1\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1407073_09_1_2.pdf). (最終閲覧日：2021 年 11 月 10 日).
- Edasawa, Y., Takeuchi, O., & Nishizaki, K. (1989). “Use of Films in Listening Comprehension Practice,” *Language Laboratory*, 26, 19-40.
- Larsen-Freeman, D. (2003). *Teaching language: From grammar to grammaring*. Boston, MA: Thomson and Heinle.
- 映画 Blu-ray
- Heyman, D. (Producers) & Columbus, C. (Director). (2001). *Harry Potter and the Philosopher's Stone* [Motion picture]. United Kingdom and United States: Warner Bros. Pictures.

付録 1

<事前・事後テスト 1>

括弧内の語を並び替えて、与えられた日本語の意味を表す英文を完成させなさい。ただし、文頭に  
来る語も小文字にしてあるので注意すること。

(1) 私はその事故があった場所を覚えている。

( the / remember / accident / place / I / happened / the / where ).

---

(2) 私は彼女が試験に通った事実を知っている。

( the / I / she / know / that / test / fact / passed / the ).

---

(3) 私はロンドンに住んでいる友達がいる。

( in / friend / London / who / have / lives / a / I ).

---

(4) 私が昨日観た映画は面白かった。

( yesterday / I / the / fun / which / watched / was / movie ).

---

(5) 彼は仕事をやめた、そのことは驚くことではなかった。

( not / the / he / was / job / surprising / which / quit / , / ).

---

付録 2

<事前・事後テスト 2>

括弧内の語を並び替えて、与えられた日本語の意味を表す英文を完成させなさい。ただし、文頭に  
来る語も小文字にしてあるので注意すること。

- (1) 彼女のメールアドレスを知っていたらなあ。  
( I / email / knew / wish / address / her / I ).

---

- (2) もう少し早く起きていたら、電車に乗ることができたのに。  
( could / had / the / little / train / you / have / a / up / if / caught / you / earlier / woken / , ).

---

- (3) さよならを言う時よ。  
( said / time / it / goodbye / is / we ).

---

- (4) 明日雨が降ったら、私は出かけないだろう。  
( tomorrow / go / rains / if / will / out / we / not / it ).

---

- (5) もっと英語を勉強しておけばよかった。  
( English / I / studied / harder / wish / had / I ).

---